

第1回 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業検討会 会議録

日時	令和7年5月23日（金）午後2時30分から午後3時40分
場所	議会棟 1階 全員協議会室
出席者	○出席委員 神永 直美委員、藤代 明委員、楠川 栄治委員、伊豆永 千代委員、 松木 幸恵委員、佐藤 静善委員、松本 エリ子委員、飯田 鑛平委員、 辻口 美佐枝委員、飯野 千里委員、宮崎 由美子委員、山本 健太委員 ○事務局 田中 健治副主幹、小林 弘典主査補、菅野 優里香主事、 ダドバンド 成美副主幹、栗下 歩主任保育士、藤崎 裕之主幹（室長） 小高 純主査補、松原 和弘主幹、山本 みゆき指導主事 ○オブザーバー 千葉県総合教育センター 清水 健広研究指導主事、 齊藤 典子研究指導主事、藤岡 夏基研究指導主事、 市原 純子幼児教育アドバイザー
傍聴	0人
配付資料	・次第 ・資料1 委員一覧 ・資料2 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業検討会設置要綱 ・資料3 検討会の運営について ・資料4 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業について（案） ・資料5 架け橋カリキュラムについて
議事	① 会長、副会長の選任 ② 検討会の運営について ③ 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業 について（案） ④ 架け橋カリキュラムについて

以下、議事内容

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員紹介

4 議事

～議事① 会長、副会長の選任～

佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業検討会設置要綱の第5条の規定に基づき、委員の互選により、会長は神永委員、副会長は藤代委員が選出されました。

～議事② 検討会の運営について～

【事務局】

(資料3に基づいて説明、了承)

～議事③ 佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業 について (案)～

【会長】

それでは、次第に従いまして、進行を進めていきます。

議事の3佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業案について、事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料4に基づいて説明)

【会長】

ただいまの事務局の説明についてご意見やご質問はございませんでしょうか。いかがですか。

ご質問をお考えいただいている間に、私の方から少しお話をさせていただきたいと思います。「幼保小の架け橋プログラム」が目指すものは何か、なぜ今このようなことをやっているのかについてです。ここ10年ほど、世界的に幼児教育の重要性が叫ばれていて、幼児教育が大切だという研究もさまざまなところで示されています。幼児教育を充実させれば、国が豊かになるという話もあり、日本でも取り組むということで、幼児教育スタートプランが出されたのが令和4年度だったのでしょうか。それから「架け橋プログラム」を実施し、架け橋カリキュラムを作成していこうということで、19のモデル地区が選定され、令和4・5・6年度の3年間で取り組み、その成果が文科省のホームページなどに多数掲載されています。どれも非常に参考になる資料ばかりですが、そのモデル地区で取り組んだことに、どのような成果があったか調査が行われ公表されているところです。その調査結果で示されているのは、さまざまな内容がありますが、こどもたちがより主体的になったとか、登校渋りとかが少なくなったとか、そのような調査結果などもホームページにあがっています。そういうことで、幼児期から資質能力をつなげていくことが最大の目的になっていくわけですが、それを先ほどから説明が

あった「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにつなげていこうという、つまり、「主体的・対話的で、深い学び」をどうやって実現していくかということを考えていく必要があると思います。幼児教育の中でも、こどもの興味関心から始まった遊びを保育者がどう関わって、夢中になって遊べるような遊び、それから5歳児の終わりぐらいになりましたら、それが探求的な活動に発展できるようにしていくか、そしてそれを、小学校1年生の「主体的・対話的で、深い学び」にどうつなげていくかということが非常に大切なことかと思います。その架け橋プログラムの中では、この架け橋期のカリキュラムを作成するというのが、中心的な取組とされています。ですから、架け橋カリキュラムで幼児教育と小学校教育をつなげていくことが、この佐倉市の取組でも中心になるかと思います。後で事務局の方からご説明があると思いますが、そのような流れになろうかと思います。

何かご質問はございませんでしょうか。ご意見などぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

幼児教育の重要性は、現場の方でずっと意識をしております、主体的な遊びの中でこどもたちの力を育てていくということを続けてきました。また、小学校につなげていくにあたって、小学校のような教科学習スタイルではない、遊びをとおした総合的な授業という所がなかなかご理解いただくのに、やはり苦労がありましたし、幼小接続を充実させていくという所が、個々の交流や連携では、大変課題がありましたので、このような形で市の方で、主体的にみなさんと共有し、取組ができることを幼児教育の重要性が小学校の深い学びに更につながっていくということで、大変意味があることだと思って賛成の気持ちでお話を聞かせていただいております。

【会長】

ありがとうございました。今ご意見をいただきましたように、幼児教育の側も小学校教育の側も自分たちの保育・教育を見直して、より「主体的・対話的で、深い学び」にしていくためにはどのような手だてがあるかを考えていくことが非常に大切なことだと思っています。幼児教育、小学校教育の質を向上させるという最終の目標があると思っています。いかがでしょうか。

はい。お願いします。

【委員】

私たちこども保育課は、保育施設を所管しています。合同施設長会議等で、民間の園の先生の中からも、この幼保小架け橋プログラムに関しては、すごく興味といいますか、使命感ではないですけども、やっていこうというところで、民間の保育園の先生方からも、どんな風に小学校さんにつながっていいのかなどという相談も、あがっているところです。今までは私たちも大丈夫だから連絡してつなげていったらどうかということも言うておりましたけれども、また今回案にもあがっていますけれども、その地区ごとであったりとか、よりつながりやすくなったりとか、私たち横に連携をとっているつもりではありますけれども、お互いの例えばカリキュラム、小学校と保育園とはまた別に私立幼稚園さんであったり、民間の保育園さん、あと私たち公立保育園であったりというところで、どんなカリキュラムをやっているのかということも、これからの話し合い等の中で情報共有しながら

進めていけるというのがすごくいいことなのではないかなと思います。私からは以上です。

【会長】

ありがとうございました。今のお話のように横の繋がりを大事にしていくということがすごく大切で、横の情報交換をしながら、お互いに高め合うことが重要だと思います。また枠組みができることで、すごく連携がやりやすくなるというお話をお二方ともされていたと思いますが、そのような枠組みをつくることでこの事業が先に進むことが期待できると思います。

はい。他に何かございませんでしょうか。よろしくお願いします。

【委員】

今、幼稚園の方とか保育園の方からお話があったので、小学校の方から意見を言わせてください。昔よく中1ギャップっていう言葉があったかと思うんですけども、今はやっぱり小1ギャップだと思っております。私校長に着任して、今年が初めてなんですけれども、笑顔で皆さん入学してきて、小学校もルンルンでピカピカのランドセルしょって来るんですが、1週間たつと学校の前に何名か、「行きたくなーい」とか叫び声が結構するんです。聞くと、「人がいっぱいいる」とか、「長い時間座ってなきゃいけない」と言います。初めは給食食べずに3時間4時間で帰るのですが、我々からすると、小学校にずっといるから当たり前のように見えていることが実は当たり前じゃなくて、先程横のつながりって、お互いを知っていることっていうのは何よりも大事で、それこそこの情報社会、情報って何よりも重いことだと思っております。交流とコミュニケーションと情報を、23校と保育園、幼稚園と繋がっていくことが大事かなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

貴重なご意見ありがとうございました。今までアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムでつないでいくということがありましたが、それを更に充実発展させていくというイメージかと思っています。いかがでしょうか。それでは、次よろしいでしょうか。

では取り組み1、2の方針についてご承認いただけるということでよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

～議事④ 架け橋カリキュラムについて～

【会長】

それでは、次の議事に移ります。議事の4架け橋カリキュラムについて、事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料5に基づいて説明)

【会長】

ありがとうございました。これが本日の重要な議題になるかと思います。活発なご意見をいただい

ればと思います。事務局より説明のあった件でご意見やご質問はございますか。

現場の方のご意見として、いかがでしょうか。

【委員】

今保育園の方では、月案であったり、年間であったり、そういったもののカリキュラムに関しては5領域をもとにたてております。ですので、現場の先生は5領域からの領域の内容が記されている案2が書きやすいのではないかと思います。

【会長】

具体的には2案ということですか。

【委員】

はい。

【会長】

2案で大丈夫ですか。そのようなご意見が出ましたが、他にいかがでしょうか。

【委員】

今日の会議自体なんですけども、これを佐倉市で取り組むという目的の中で、それじゃ現状がどういう現状になっているのか、その現状を踏まえて、これから先の展望を見るときにどういう方法がいいのか、その事柄の話かなと思うんですけれども。私どもは幼稚園ですけど、幼稚園から送り出して、小学校に行くときの事柄で、今、小学校の方で、幼児期、未就園児の時にどういうものをしてたら小学校に接続したときにより容易に問題がなく済むというような事柄でこれが進んでいるかと思います。すると問題点がわからないという気がするんですが、今保育園さんもおっしゃっていますけど、私ども5領域ですずっと年間計画から日案日々進めていくんですけれども、これはこれでもう完成されているものですので、それを小学校とどう位置づけるかが、これ今回のカリキュラムになると思います。そうすると、繰り返しになりますけども何を小学校さんで求めているか、逆に言うと、それじゃ未就園児の段階で何が不足しているのかという事柄をあぶりだしていったってそれを解決する方法が、必要じゃないかなと考えている次第です。

【会長】

はい、ありがとうございます。今ご指摘がありました、現状の把握については、共通の視点として挙げられている項目例の一番上に、「期待するこども像」という記載が、どの案にも含まれているかと思っています。1案・2案・3案のいずれにもあります。

その「期待するこども像」について話し合う際に、それぞれの学区やブロックごとの課題を整理していただき、今お話があったようにどう進めていくかを、共通理解のもとで話し合っていく、というイメージになるかと思います。

事務局の方から、何かご説明や補足がございますでしょうか。

【事務局】

今会長がおっしゃったように、各地区、もしくは直接連携をする園、小学校の実情に応じた形で、その課題問題点というのを解決していくというのが、理想であると我々は考えているところでございます。以上です。

【会長】

ありがとうございます。そのようなことでよろしいですか。

【委員】

先に出てくるという。

【会長】

そうですね。最初に話し合っていただくイメージとしては、まずブロックごとに話し合っていただくことになります。「期待するこども像」をどのように設定するか、どのように表現にするか、その小学校や幼児教育施設で今課題となっていることから考えていただいても結構だと思います。各ブロックで「伸ばしたいところをさらに伸ばす」という方向性でも良いと思いますし、そのような視点から進めていただいても良いかと思います。ブロックごとに大切にしたいことを、幼児教育施設と小学校で一緒になって考えていくというところが、やはりこの架け橋カリキュラムの作成にあたって、非常に重要なポイントになるのではないかと思います。

他に何かご質問等はございませんか。

恐れ入りますが、こちらからご指名させていただきます。いかがでしょうか。

【委員】

今の説明で私もちょっともやもやとしたところが少しわかったかなと思うんですけども、さっき委員から小1ギャップってところで、そうすると送り出す方は何を準備して、どのようなことをしていったらいいのかな、今やっているんだけどなっていうのが正直思ったところで、そうすると今やっていることに對しても何が不足しているから現実的にはそういうギャップがうまれてしまうのかというところを今ちょっと自分の中でも、これからブロックごとの話し合いで地域性ですとかね、人数とか規模数とか、色々課題は、違いがあると思うんですけども、そこで話し合うことで、それぞれの地域で、地域ごとに小学校にいくと思いますので、そこで課題を、同じ方向性を見られるというか、そのところで小学校と連携をとるということが今すごく一番大事なんだっていう所を再認識しました。あと、今回のこれとは違うかもしれないんですけど、要録の書き方が私今すごく非常に頭悩ましい所で、あの書き方で小学校は、あの書式で小学校さんの所に何が伝わるのかなっていう所も、正直あります。聞き取りに来ていただいても、なんかどこからどこまで話せばいいのかとか、何をどのように伝えたらいいのかという、保護者にもそれを開示しなければいけないという所で、そういう所も意識しながら書くのがすごく今難しいというのが今正直思っている所ですので、その辺りも、ぜひ何かここで勉強させていただけたらと思っております。以上です。

【会長】

はい。貴重なご意見をありがとうございました。今、幼児教育側では十分にやっているけれども、これ以上どのようにやっていけばいいかというご指摘がありました。もちろん、そのようなことは十分承知している上でのことですが、より主体的に、より対話的に、より深い学びにしていくにはどうしたらいいのかということを、今一度、当たり前になっている保育を問い直すということが、この架け橋プログラムの趣旨でもあると考えます。ですから、これまでの保育を、そうした視点から問い直してみる。たとえば、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」という観点から見てみるとどうだろうか、ということです。もっと子どもたちが主体的に、もっと対話的に、もっと深い学びにつなげていくためにはどうしたらよいか、といった視点が、これからますます必要になるのではないかと感じています。それで、「10の姿」で要録の方も書くことが今、求められていますから、どんな遊びがあつて、その遊びの中でどのような力が育っているのか、というプロセス、つまり、目標ではないので、幼児期の「10の姿」というのはゴールではなく「姿」ですから、やはり過程を通した学びの姿を書いていくことが求められています。まだ慣れていないため難しさも感じられるかもしれませんが、それも含めて、どのようにしていったらよいかということを、各ブロックで話し合っていただけると、すごく具体的な話し合いができるのではないかと思います。

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【委員】

私たちが今今年度が始まって、特に年長組の担任とよくお話しするのが、やっぱり残りのこの1年間進学に向けて今の子どもたちにじゃあどういった力をつけて卒園進学っていうところに目を向けていけばいいのかと考えていることがすごく多くて、私たちもこういう姿で送り出したっていう思いの中で保育はさせていただくんですけども、それが実際に進学、1年生になったときに、やっぱり、耳に入ってくる中でちょっとつまづいてしまって、今支援級に行っていますっていうような声を保護者の方からいただいたり、ちょっと行き渋りがありますっていうようなお話があったりしたときに、じゃあ園として、もっと実はこういうことがした方がよかったのかとか、保護者の方にもこういうアプローチをしなければいけなかったのかと思うことがすごくたくさんあつて、本当に難しいなと思っています。ただ、送り出すだけはすごく簡単なんですけれども、でも最終的に進学して困っているのはその子どもたちなので、私たちが、一番考えるというのは子どもが困らない、行きたいと思えるような環境で送り出したいと思っているので、今小学校さんの方でも1年生に関してどういうことが困ってらっしゃるのかっていうのは正直私たちもなかなかお話しする機会がないので、実際にどんなことが困られていて、園にはもっと実はこうして欲しいという意見があるのではないかと思いますので、こういう場の中で、小学校さんの思いとか、現状などを私たちも幼児教育の立場から伺うことで、よりいろんなことをブラッシュアップして保育の中にかかしていけるのがこういう機会なのかなと思うので、この貴重な機会で私たちがもう1回子どものために何ができるのかっていうことを、非常に考えていきたいなっていうようなきっかけになっていますので、このいただいたカリキュラム、架け橋カリキュラム、3案出していただく中で、私たちはやはり5領域っていうところが一番ベースにはなっているので、やらせていただいている5領域を小学校さんの方に提示させていただいて、そして学校さんの方

で、いやちょっとここがもうちょっと足りないですとかもってここは十分にやられていますねという、その過不足がこういろんなお話ができたらいいのかなと思うので、2案のところでやらせていただけるのが、現場としてはやりやすいのかなという先程もありましたが、そのように思っております。以上です。

【会長】

ありがとうございます。保護者へのアプローチなどにも着手していらっしゃるようですが、案の中にも最下段には「家庭や地域との連携」が、その上には「教職員の連携」が含まれています。小学校の様子がわからないというご意見もありましたので、ぜひ「フェーズ1」のところにもありますように、小学校の授業を保育者が参観したり、小学校の先生が保育を見学したりといったところから、理解を深めていただくということも可能かと思います。今、案2がいいのではないかというお話もありました。それではここで、小学校の先生にご意見をうかがえればと思います。いかがでしょうか。

【委員】

そうですね。小学校の側から言わせていただけると、2案であったり3案であったりってところが、いいのかなというところではあるんですけども。やはり、個々のお子さんによって、やはり課題が、大きく違ってくる場所もあるのと、地域の格差というのはかなりあると思うので、そこをどう詰めていくかという所には課題があると思います。全体的にはやはり同じようにこうやって、やっていくけれども、やっぱりこぼれやすいお子さんについて、個々に聞き取りという最後のところであるとは思うんですけども、全体的なプログラムとしてこれをやって、個々の繋ぎで難しいお子さんについては、連絡を個々にという形なのかと思います。いくつか行事があると思いますが、小学校でやっている行事に、お子さんに来ていただくっていうのもそうですし、できれば職員の方に来てみて1回見ていただければなというのも、今あるので、目玉になる部分になるとは思うんですけども、そういった形での連携というか、知っていただくっていう形も取ればなというのが今私の方で考えているところです。

【会長】

ありがとうございます。やはり職員間の連携が必要ではないかというご意見もいただきましたが、幼児教育側も小学校の、たとえば生活科の教科書について研修をするなどして、小学校の授業についてイメージをもってもらえることができると思います。それで、現在、遊びを中心に行っている保育が、小学校、特に生活科でどのように活かされていくのかといった点も、イメージしながら授業を実際に見てみたり、教科書を研究したりすることができるのではないかと思います。

今は案2か案3がよいのでは、というお話が出ていたかと思います。では、いかがでしょう。今のお話を聞いて、どの案が良いと思われるか、あるいは案2と案3を組み合わせるといった考え方もあるかと思いますが。幼児教育側からは、「5領域の方が書きやすい」というご意見もありました。ただ、「遊び」を捉えたときには、5領域すべてが含まれている、つまり総合的な指導を前提として進めているという理解があると思います。たとえば5領域の中の1つだけを取り上げて活動しているわけではない、というのが前提ですので、そのあたりについて、どのように考えていかれるか、いかがでしょう

か。

【委員】

会長さんがお話ししてくださったことは、正に月案を作るときなんかには現場で毎回悩む所でありまして、この遊びがいろんな所に繋がっていることですし、10の姿の所にまたがっていているという所だと思っていますし、10の姿の所もいろんな所にまたがっているというところ、それが幼児教育の特性だと思うんですけども、本園でも計画は5領域をもとに作っていますが、このところにあるような遊びの題名や活動名の後ろに、3案の方の10の姿の番号が複数羅列されているんですけども、それを本園では合体したような形で、一見するとちょっと情報がたくさんになってしまうんですけども、幼児教育の遊びの特性が見てわかるような形になっていて、もしかしたら小学校の先生がご覧になっても、そういうところがわかりやすくとらえていただけるのではないかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。3案を中心というようにことだったかと思いますが、他に何かご意見がある方はいらっしゃいますか。もう皆さんにお聞きしましたでしょうか。

いかがでしょうか。

【委員】

正直な所、保育士でも教諭でもないの、この5領域だとか、10の姿が実際どういうものかというの、全く実感がわいていないので、この案のどれがいいかということについては、ご意見を申し上げるのは難しいんですけども、私共民間保育園さん、公立保育園さんに関わりがあるんですけども、あと幼稚園さん、認定こども園さん、それぞれが今おそらく小学校との接続ということで悩みというか、そういうのを抱えていらっしゃるだろうなって、またそれぞれが、アプローチしていただいている所もあるでしょうし、また残念ながらちょっと小学校の方になかなか接続ということでお声掛けできていないという所ももしかしたら数多くある、教育、保育施設の中にあるのではないかなという中で、こういった会議を通して、それぞれの分野の方々が一人的こどもが幸福になるというか、幸せに小学校1年生として学校に行けるようになるということを、みんなで考えられるのがすごくいいなと思っていて、どんな風になるかは、本当に申し訳ないんですけども専門的な知識が無いのでお答えできないんですけども、どの分野、どの案になったとしても、これが最終形ではないというようにとらえていまして、これを試しにやって、これからどんどんブラッシュアップしていくものだと思いますので、まずはどれかに決めることにはなるとは思うんですけども、やってみて変えていくということをもたこういった場か、実際に使ってもらった保育施設、小学校さんの方でここがやりにくかったよというようなことがあればそこを、改善していくという考え方でいいのではないかなと思います。

【会長】

大変建設的なご意見をいただきました。ありがとうございます。今の考え方については、私自身も強く共感しております。「とりあえず」という表現は少し語弊があるかもしれませんが、まずは一度つくってみて、それを完成形とせず、必要に応じて見直し、不都合があれば柔軟に変更し、ブラッシュアップ

プしていくという考え方については、皆さんにもご賛同いただけるのではないかと思います。それも含めて、いかがでしょうか。

それでは、よろしくお願いいたします。

【委員】

先程から現場の先生方からのご意見、2案がとても書きやすいというお話であるとか、3案がいいんじゃないかというお話をいただいている所でございます。私も現場の人間ではないので、どの案がいいということは申し上げられないのですが、ちょっと事務局側の意見のようになってはしまうんですけども、今後、今までこども政策課さんの方でご担当されていた連携協定を結ばれている小学校さんと、あと民間保育園さんが幾つかあります。民間保育園、幼稚園さんとか。そちらにご協力をいただきながらカリキュラムの作成を今年度やっていただこうと考えておりまして、仮に作っていただく所に2案とか、1案っていうお話は無かったので、まずは2案とか3案とか小学校さん、民間保育園さんの良い方をどちらかとしていただいて、それを作っていただいてブラッシュアップしていく、良い所を取り入れながら完成を目指していくというような形はいかがかなと、今お話を伺いながら思っていた所です。以上です。

【会長】

ありがとうございます。いかがでしょうか、みなさん。うなずいてくださっている方がたくさんいらっしゃいます。はい、どうぞ。

【委員】

言葉が足りず、補足といいますか訂正なんですけれども、私が申し上げましたのは5領域の2案の方に、3案の10の姿の番号などが入ってくるとわかりやすい、良い所が合体した形でいいのではないかなと思うということでした。

【会長】

ありがとうございます。はい。よろしくお願いいたします。

【委員】

私も似たようなことを考えていまして、2案の方は、領域が多分幼稚園、保育園さんの領域に合致しているのでわかりやすいんですけれども、数字が入ってくると記号化されて、パッと後で見たときに見やすいんですよね。なので、この数字をどこかで落とし込んでいくというか、そうすると、形は2案の形であってもいいんですけれども2案の中の数字化していくってことで記号化して、全体的にシンプルになってくるといいですか、見やすくなってくるっていうところが、使っていく際にもいいのではないかなというのも私も考えていたところです。

【会長】

ありがとうございます。どの方も考えていらっしゃるの、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

を手がかりにし、それを大切にしていこうとするならば、その10の姿の番号などをカリキュラムの中に入れていくことでつなげていくことを意識したらいいのではないかと思います。ですので、その10の姿の番号を、カリキュラムに記載する方向で進めていくのが良いのではないかと、いうご意見かと思います。5領域の記載については、また後ほど整理していただく必要があるかもしれませんが、会長の立場でこんなこと言っているのかわからないのですが、遊びを見ながら進めていくとなると、5領域で区切ってしまうのは、かえって難しくなるのではないかと、個人的には感じています。子どもたちが目を輝かせ、夢中になって遊ぶ姿をとらえ、その中で「10の姿」のどれが育っているかを見ていく。5領域については後づけのようにして、「この領域が含まれているな」と捉える考え方のほうが、こどもを中心に、こどもを真ん中にあるということが、明らかになっていくのではないかと、個人的には思っております。それではまとめに入りますが、案2と案3を中心にしながら、「10の姿」の番号を記載する形で進めていくということによろしいでしょうか。一番大切なことは、共通の視点として考えられる項目であり、カリキュラムの一番左側にある「共通の視点として考えられる項目」が非常に重要だと考えています。これを共通理解しながら進めていくということなので、中央の「活動内容」の欄にボリュームがあるかと思いますが、この中に、先ほど委員からもご意見があった、個別に配慮を要するお子さんへの対応も含めていくということを意識しながら進めていく必要があるのではないかと思います。家庭との連携の中にもそのような事項が含まれてくるかと思います。以上を踏まえて、他にご意見はございますか。大丈夫でしょうか。それでは、案2と案3を中心に進めていくということによろしいでしょうか。

それでは、ご賛同いただける方は拍手をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

では、案2と案3の内容を反映させながら、カリキュラム作成を進めていくことといたします。ありがとうございました。

これで本日の議事は終了となります。

それでは、次第の5「閉会」に移ります。

事務局より伝達事項等があれば、お願いいたします。

【事務局】

(次回会議の開催などについて伝達)

【会長】

ありがとうございました。それでは第1回の会議は以上で閉会といたします。

長時間に渡りご議論いただきありがとうございました。